

笠間市地域おこし協力隊 活動報告

No. 32

プロフィール ともだ おさむ 友田 修 (58歳) 神奈川県より移住

人で賑わう笠間駅前に！

まちづくりcafé上州屋には、商人の宿として繁盛していた大正初期の写真があります(左)。茶店風の店先は人々で賑わい、人力車の車夫も客待ちの休憩場所にしていました。右は地域おこし協力隊がプロデュースした「温故知新の街巡りイベント」で3月に人力車を走らせた時の上州屋の店先です。当時の賑わいを現在に再現したようなワンショットです。

任期はあと一年。日常的に人で賑わう笠間駅前を目指して、面白い企画展を開催していきます。



大正初期の上州屋
(人力車が見える)



人力車運行で賑わう
上州屋の店先

地域おこし協力隊とは

地域おこし協力隊とは、総務省が平成21年度から取り組んでいる制度で、都市部の意欲ある人材が地方へ移住(最長3年)し、地域力の維持・強化を目的とした支援活動を行うものです。



ブログやフェイスブックも ブログ▶<http://ameblo.jp/kasamart-wa/>
ご覧ください facebook▶<https://www.facebook.com/Kasamartowa>

【問合せ】まちづくり推進課(内線538)

Jordan's ジョーダンスビュー vol.7 View

Hello everyone! Kasama City CIR Jordan, here! 皆さん、こんにちは！笠間市国際交流員のジョーダンです！

CIRに応募した時、通訳・翻訳の仕事がたくさんこなすことを期待していました。プロの通訳・翻訳家になるという私の夢をかなえる大きな一歩だと思っていたので、笠間市役所での仕事の大半が翻訳ではなく、子どもたちに英語を教えることだと知った時は、正直、少し残念な気持ちでした。英語を教えることは楽しく、子どもたちも大好きですが、CIRに応募した時に感じた夢に近づいたうれしさとは少し違っ

ていました。

しかし、CIRの仕事を始めて半年が経ち、英語のスキルが伸びるなど、子どもたちが成長するのを感じることができるようになり、私の当初の気持ちは劇的に変化しました。毎回子どもたちに会えるのが楽しみで、教えている時間が大変有意義であり、何より、子どもたちがおそらく人生で初めて触れ合った「外国人」になれたことは、何物にも代えがたいことです。子どもたちに英語を教えていることは私の誇りであり、CIRという仕事に就けて幸せだと感じています。

4月は学校が始まる月です。私が教えていた年長児たちは、4月から小学校に進学します。小学校では、私が教える機会はありませんが、いつまでも私のことを覚えていてくれるとうれしいです。新しい年度になり、彼らに、そして皆さんに、たくさんの幸せが訪れますように！ 笠間市国際交流員 ジョーダン

10秒でわかる!? 英語表現

“Don't sweat it!”

ドン・スウェット・イット(ドンマイ・心配することはない)

今月の表現は直訳すると「汗をかかないで」となりますが、実際は「気にしないで」という意味になります。sweatは「汗をかく」という意味以外に「心配する」という意味もあります。「ドンマイ」に近い表現で、友だち同士の会話でよく使います。

例) It's OK if you can't do it. Don't sweat it!

(できなくても大丈夫だよ。気にしないで!)



英語でシング&プレイ

笠間市国際交流員(CIR: Coordinator for International Relations)

JETプログラム(語学指導を行う外国語青年招致事業)で派遣され、英語教育と市の国際化に関わる活動に取り組んでいます。